

授業科目

教育実習（栄養教諭）

担当教員名 笹川 トシ子	対象学年	4	対象学科	健栄
	開講時期	前期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	60

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
○	○	◎	◎	◎

授業の概要

教育実習（栄養教諭）は、6月に原則として新潟市立小学校で2週間行う。事前・事後指導は別途行う。実習校を事前訪問し、児童生徒の食に関する課題を把握し、指導資料を準備する。実習後、実習中に把握した児童生徒・教職員等の食に関する実態、児童生徒と教職員とのかかわり、栄養教諭の使命などについて、報告会を開催し、報告する。

授業の目的

教育実習（栄養教諭）は、小学校又は中学校における教育実地研修であり、教職課程の根幹をなす。教育実習の目的は、学校教育の現実と学校現場での教師の活動を体験的かつ総合的に認識すること、大学で学習した専門科目や教職に関する知識・理論を学校教育活動に主体的に適用させること、学生自ら教職に対する使命感や自己の教職に対する能力・適性について自覚することである。

学習目標

- 1.教育実習の目的、目標について述べるができる。
- 2.各自の教育実習の目標を明確にし、必要書類を作成する。
- 3.実習校を事前訪問し、実習校の児童の食に関する課題を把握する。
- 4.課題解決のための食に関する指導の案を作成し、資料を準備する。
- 5.実習校の教育活動全体における教師や児童を注意深く観察し、教師の働きかけや児童の反応・活動・食に関する実態等を把握する。
- 6.栄養教諭（学級担任）の活動を補助的な立場で実際に行う。
- 7.栄養教諭（学級担任）の指導の下で計画を立案し、主体的に給食の時間の指導を行う。
- 8.栄養教諭（学級担任）の指導の下で、食に関する指導の授業の指導案を作成し、授業を行う。
- 9.教育実習（栄養教諭）で把握した児童の実態・教師の働きかけ・栄養教諭の使命・他職種との連携・自己評価等を実習日誌に記載する。
- 10.教育実習（栄養教諭）における生活の様子・事前準備等について評価する。
- 11.教育実習（栄養教諭）で使用した用具や資料等を整理し、実習校の関係者に教育実習（栄養教諭）の礼状を出す。
- 12.教育実習（栄養教諭）での各自の実習内容や学びを、報告書・パワーポイントにまとめ、報告会を開催し、報告する。

授業計画

授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
○オリエンテーション他（4月上旬）	事前指導：学内	笹川 トシ子
○実習校での打ち合わせ（5月中旬：適宜）	事前指導：学外	笹川 トシ子
○教育実習（栄養教諭）（6月上旬：2週間）	実習校	笹川 トシ子
<実習の進め方と方法>		
講話：指導者からテーマに沿って話を聞く		
観察：問題意識を持って子どもや教師の活動を注意深く見る		
参加：栄養教諭（学級担任）の活動を補助的な立場で実際に行う		
実習：栄養教諭（学級担任）の指導の下で授業計画を立案し、主体的に実践する		
※「参加」の段階は、「講話」によって原則を理解し、「観察」によって実態を知る。知ったことを踏まえて、「実習」に向けての力量を高める。		
○教育実習（栄養教諭）の自己評価（6月下旬）、教育実習(栄養教諭) 報告書作成（7月下旬）	事後指導：学内	笹川 トシ子
○実習報告会（8月上旬：半日）	報告会：学内	笹川 トシ子

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他

教科書						
参考書						
その他の資料	教育実習(栄養教諭) 要項および実習日誌					
	食に関する指導の手引―第1次改訂版―	文部科学省	東山書房	22年	1,200円+税	3年次購入済
	小学校指導要領 平成20年 告示	文部科学省	東京書籍	20年	227円+税	2年次購入済
	食に関する指導を行う場合に必要とする書籍・教科書・資料等					

評価方法

実習校の指導教員からの評価と実習日誌・報告書・報告会から評価する。

履修上の留意点

実習計画は、実習指導者および教職担当教員の指導の下、準備を進める。

実習内容は、教育実習(栄養教諭) 要項に則って、実習校と相談し、各校の実情に合わせて調整し、計画する。

※3年次後期までの必修科目をすべて履修済みであることが必要

オフィスアワー・連絡先

オフィスアワー：月曜～金曜 10:00～16:00（授業・会議・出張等を除く）

研究室：F202a

連絡先：sasagawa@nuhw.ac.jp

授業に関する質問などは、メールアドレスまでご連絡ください。